

令和6年度 第2回養父市立図書館協議会 議事録

- 1 開催日時 令和7年3月6日(木) 10時～12時
- 2 会場 やぶ市民交流広場 中会議室
- 3 出席者 鷹野恭子(会長)、池田ビルギット(副会長)、有本正彦、守本加代子、
福井真澄、松岡弓果、宮本裕美
事務局4名 …田村(館長)、上垣、毛利、西谷

4 内容 *司会進行 … 事務局(上垣)

(1) 開会

(2) あいさつ(委員の紹介は2回目のため省略)

(3) 報告事項

ア 令和6年度事業経過について

イ 今後の予定について

- ・書架の購入
- ・新カード発行
- ・1,000万円は令和8年度までなので計画的に使用したい

5 各委員より

<出された主な意見>

(委員) 利用者登録を促進するために、iターンやUターン等で新たに養父市へ来られた方に、住民票と一緒に利用者カード申込用紙を送付するのはどうか。

(委員) 近隣図書館には視聴覚室(シアタールーム)があるのに養父市にはないので映画を見ることができない。

(事務局) 現在の設備では、視聴覚室を新たに新設することは難しい。まち文主催のホールイベントの映画まつり(上映会)や、大会議室等でプロジェクターを使って映像を上映することはある。視聴覚資料のうち、DVD等映像作品については、館内のみ利用可能の条件付きのものも多く、蔵書として購入予定はない。

(委員) 養父市立図書館では現在さまざまなイベントが開催されているが、子ども向けのイベントしかなく、大人を対象としたイベントが少ない。年配の方になると図書館について利用料金が発生すると思っている方も多々いる。そのような

誤解を解くためにも高齢者向けに図書館を知ってもらう機会を設けるのはどうか。

(事務局) こどもとおとなのおはなしかいでは大人を対象としたイベントを開催し、秋の読書週間では大人を対象としたイベントも行っている。使い方の講座については、やるとすれば、最低限の貸出・返却のルールを知ってもらうものと、ネット予約や相互貸借などの少し発展的なサービスを知りたい人に向けたものなど、レベルを分けた講座が必要になるだろう。高齢者向けにスマホ講座をやっている課があるので、参考にしたい。

(委員) 5月の「こどもの読書週間」で行われたガチャガチャ（5冊の貸出につきコイン1枚配布）だが、本館にしか筐体がなく、分館で5冊以上貸出の利用者に恩恵がないのは不平等だと思う。本館で5冊以上の貸出→コイン1枚配布、分館で5冊以上貸出→交換用紙（本館でコイン1枚と交換できる）を配布で対応できないか。

(事務局) 来年度は交換期限を設定するなど調整した上で対応する。

(委員) 専門職大学の受け入れ期間が2日間はあまりにも短すぎるのではないか。

(事務局) まちづくり文化交流課が主担当なので、回答できかねる。

(委員) ホールイベントに合わせた本の展示を、イベント開催時にホワイエで行うのは難しいか。鑑賞（観劇）前後に立ち寄ってもらえる絶好の機会だと思う。

(事務局) 隣の建物とはいえ、資料を職員の目が届かないところで、貸出処理がされないまま家に持ち帰られるような展示方法はとりにくい。そのためだけにホール棟側に職員を配置することも難しい。図書館棟内であれば可能なので、イベントに合わせた特集展示を考えたい。

(委員) 朝来市で実施されている「おはなしフェスティバル」のような、市内ボランティアが一堂に会してイベントができる機会がほしい。今後の参考にするため「子どもと本の研修会」では主におはなしねっと（ボランティアグループ）の活動実績を聞きたい。

(事務局) 活動実績を中心に講演いただく方向性でおはなしねっと代表（講師）の方と話を進めている。ぜひ研修会に参加いただきたい。

(委員) 小学校低学年（小学2年生）の時に「まちたんけん」学習の一環で養父市立図書館の見学に来るが、その時に利用者カード申込書を書いてもらい新規登録したらどうか。

(事務局) 申込者が小学生以下である場合、保護者の同伴が必要になるので実施は難しい。

(委員) 1冊や2冊をピックアップしてPOPのような宣伝をしたらどうか

(事務局) 1冊単位の紹介はしていないが、2か月に1度程度切り替える、特定のテーマを特集したコーナーを設置している。

(委員) 以前からお願いしていることではあるが、本館に司書を最低2名は配置してほしい。

(事務局) 司書としての採用ではないが、司書資格を持つ職員が今年度から本館に一人増えている。選書業務等、図書館の業務も担当しており、分担しながら業務を行っている。

(委員) 初めての利用者にとって今の養父市立図書館は少し敷居が高く感じる。図書館を市民にとってより身近なものにするために広報を工夫してほしい。例えばSNSの利用等ターゲットに合わせた媒体を利用する等

(事務局) 現在もホームページで利用案内を出したり、SNSでイベントの告知等をしているが、多くの人にわかりやすい表現方法に努める。

6 その他

・電子図書の導入について

(事務局) 時代の変遷とともにデジタル媒体が浸透してきた現代において、電子図書の導入は、より気軽に利用を促すことにつながるのではないかと思う。意見をいただきたい。

(委員) 小学生でもスマホを持つ時代になりつつある。電子社会を生きる子どもたちにとっては紙の図書よりもなじみがあるのではないか。

(委員) 海外雑誌も見れたり閲覧できる雑誌の幅が広がるのでぜひ導入してほしい

(委員) 小さい文字が見づらくなってきた自分にとっては文字を自在に拡大できる電子図書はありがたい

(委員) 紙の図書の良さを知らないまま大人になるのではないか。家でスマートフォンを使用できるのだから図書館では紙の図書を提供してほしい。

(委員) 図書館のような公共施設が電子図書を促進するのは好ましくない。

7 閉会